

2. ゆたかな生きもの

● 鳥のすみ場 ●

鳥や動物はいますか？



かわら みずぎわ す
川や川原・水際に、巣を作ったり、えさをとったり、休息したりするために集まつてくる
しょうどうぶつ ば かんさつ
鳥や小動物とそのすみ場を観察します。
ちょうさくちてん しゅうへん
調査地点の周辺にこれらの生きもののすみ場がたくさんあるかどうか調べましょう。

みずべ
水辺の鳥がたくさんいるか、すみ場が多い（3）



鳥のすみ場があるが多くない（2）



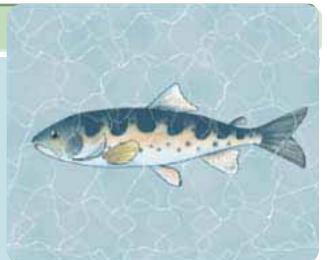
鳥がいないし、すみ場もない（1）



2. ゆたかな生きもの

● 魚のすみ場 ●

魚はいますか？



魚の生息と川の環境は深いつながりがあります。いろいろなすみ場があれば、多くの種類の魚が生息できます。しかし、魚を見つけることは簡単ではないため、魚にとってのすみ場がたくさんあるかどうかを調べましょう。このとき、錦鯉などの観賞用の魚は対象から除きます。

魚がたくさんいるか、すみ場が多い（3）



魚やすみ場があるが多くない（2）



魚がないし、すみ場もない（1）



2. ゆたかな生きもの

● 川底のようすと底生生物 ●

川底に生きものがありますか？



かわぞこ
川底のようすや川底にすんでいる生きものは、長い時間の水質の状態を教えてくれます。
川底のようすと生きものの種類を調べましょう。

川底に砂や石があって、うっすらと藻がついている。虫がいる（3）



石の表面がぬるぬるしている（藻が多い）（2）



川底は黒っぽくて藻や虫はいない（1）





水のきれいは

川の水がどのくらいきれいなのか、水の透明さとにおいを調べましょう。

次の3つの個別指標で調査します。

- 水は透明ですか？
- 水はくさくないですか？
- 水はきれいですか？ ※この調査は、関心の高いみなさんが挑戦してください。

質問	段階	3	2	1	決めた理由（わけ）
●水は透明ですか？	とうしど 透視度が 70cm 以上	50cm 以上 70cm 未満	50cm 未満		
●水はくさくないですか？	においを感じ ない	少しくさい	とてもくさい		
●水はきれいですか？ COD を簡易法で 調べてみよう	かんいほう 3mg/l 以下	5mg/l 以下	5mg/l を 超える		



3. 水のきれいさ

● 透視度 ●

水は透明ですか？



透視度は、水の濁り具合を表し、視覚的に捉えやすい項目です。透視度計（クリンメジャー）を使って調べましょう。透視度計が手に入らない場合は、アクリルパイプなどを加工して自作し、使用しても良いでしょう。透視度計のパイプに川の水を入れ、直射日光を避け、十字二重線のついた標識板をパイプ中で上下させ、十字二重線がはっきり見えた時の水深がその水の透視度になります。

段階	内 容
3	70cm 以上
2	50cm 以上 70cm 未満
1	50cm 未満

3. 水のきれいさ

● 水のにおい ●

水はくさくないですか？



水そのものにおいを判定する項目です。人為的排水（工場などから流れてくる汚れた水）などの流入によって、どのくらい影響を受けているかを知ることができます。水のにおいは、細菌や藻類、微生物などの繁殖や死滅、都市下水、畜産排水、工場排水の混入などの目安になります。

容器に採った水を振り混ぜたあと、容器に鼻を近づけて、においをかぎます。川の水のにおいを直接かげない場合は、川原で感じるにおいでもかまいませんが、必ずそのことを記録しましょう。

段階	内 容
3	においを感じない
2	少しくさい
1	とてもくさい

3. 水のきれいさ

●COD●

水はきれいですか？



有機物などによる水質の汚れを調査する項目です。この調査は、関心の高いみなさんが挑戦してみてください。

測定は簡易法により調査します。使用する COD の簡易法（パックテスト®（株）共立理化学研究所製）やシンプルパック®（柴田科学（株）製）など）の使い方の手順にしたがって測定します。それぞれの簡易法により、細かい手順や測定値の読み方が違いますので、使用法をきちんと読んでから測定しましょう。

段階	内 容
3	3mg/l 以下
2	5mg/l 以下
1	5mg/l を超える



快適な水辺

かいてき みずべ
快適な水辺であるかどうかを、みなさんの感覚によって判断する調査です。判断した理由や、
かんかく はんだん ちょうさ
みずかんきょう ひつよう
水環境がよくなるためには、どのようなことが必要かなど、考えながら調べましょう。

- けしき（感じる）
- ごみ（見る）
- 水とのふれあい（触る）
- 川のかおり（かぐ）
- 川の音（聞く）

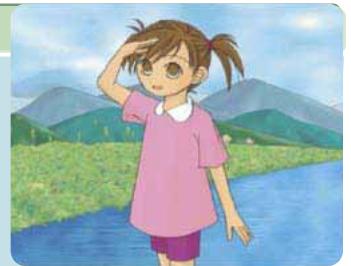
質問	段階	3	2	1	決めた理由（わけ）
●川やまわりのけしきは美しいですか？		美しい	ふつう	よくない	
●ごみが目につきますか？		ごみがない	ごみがあるが多くはない	ごみがとても多い	
●水にふれてみたいですか？		ふれてみたい	ふれてもよい	水にふれたくない	
●どんなにおいを感じますか？		心地よいかおり	気になるにおいはない	いやなにおいがする	
●どんな音が聞こえますか？		川の心地よい音がする	気になる音はしない	いやな音やそう音がする	



4. 快適な水辺

● けしき(感じる) ●

川やまわりのけしきは美しいですか？



みずべ しかい
水辺にたたずんで視界に入る川やまわりのけしきが、美しいと感じるかどうかを調べましょう。このとき、次の場所から川を眺めましょう。

○川の流れの方向に眺める ○川の対岸方向を眺める ○橋の上からなど、高いところから眺める

美しい (3)



ふつう (2)



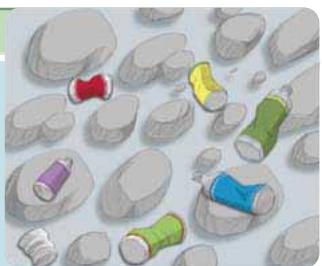
よくない (1)



4. 快適な水辺

● ごみ(見る)●

ごみが目につきますか？



川面に浮かんでいるごみや水際に捨てられたごみの量を調べて、視覚的に水辺が快適かどうかを調べましょう。

ごみがない（3）



ごみがあるが多くのない（2）



ごみがとても多い（1）



4. 快適な水辺

● 水とのふれあい(触る)●

水にふれてみたいですか？



夏の暑い日には、思わず水の中に足を入れたり、水面を手で触ってみたくなると感じます。
肌でふれた時の心地よさやふれてみたいかどうかによって、快適かどうかを判断しましょう。

ふれてみたい（3）



ふれてもよい（2）



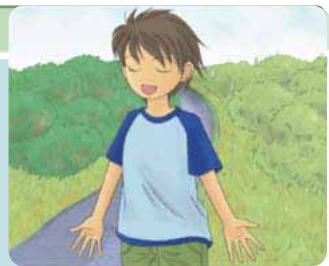
水にふれたくない（1）



4. 快適な水辺

● 川のかおり(かぐ) ●

どんなにおいを感じますか？



川の水だけではなく、川原の植物や川の周辺の森や田圃のかおりを含めた川のかおりを調査します。水そのものにおいではなく、川岸（堤防など）にたたずんだ時に感じるかおりです。

周辺の緑（自然）、風などを含め、水辺で呼吸をして快適かどうかを判断しましょう。かおりやにおいについて、自然的要素、人工的要素を含めて、快適に感じるかどうか判断しましょう。

段階	内 容
3	心地よいかおりを感じる
2	気になるにおいはない
1	いやなにおいがする

4. 快適な水辺

● 川の音(聞く) ●

どんな音が聞こえますか？



川岸に立つと、瀬を流れる水の音、堰からの落水の音、水鳥の鳴き声、水面を渡る風の音、水辺で遊ぶ子ども達の声などいろいろな音が聞こえてきます。これらの心地よい川の音や、川の周辺から聞こえる音について調査します。

水辺で聞こえる音について、自然的要素、人工的要素を含めて、快適に感じるかどうか判断しましょう。

段階	内 容
3	川の心地よい音がする
2	気になる音はしない
1	いやな音やそう音がする



地域とのつながり

「地域の人々やその場所を訪れる人たちが、どの程度、その川に親しみ、その川を大切にしているか、ふだんの生活の中でその川（水）がどのように係わっているか」といった川と地域とのつながりの深さを調査します。

●歴史と文化

●水辺への近づきやすさ

●日常的な利用

●産業などの活動

●環境活動

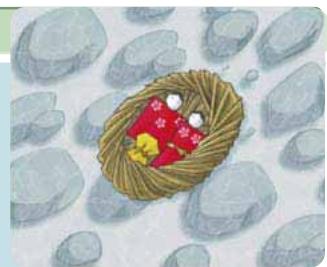
質問	段階	3	2	1	決めた理由（わけ）
●川にまつわる昔の話を聞いたことがありますか？		たくさん聞いたことがある	聞いたことがある	聞いたことがない	
●水辺には近づきやすいですか？		近づいて、水にふれられる	近づけるが、水にふれられない	水辺を見ることができない	
●多くの人が利用していますか？		多くの人が利用している	利用はされているが少ない	利用されていない	
●産業などの活動		よく利用されている（漁業や水道など）	少し利用されている	利用されていない	
●環境活動		多くの人々がさかんに環境に係わる活動をしている	時々あるいは一時的に活動をしている	全く活動がない	



5. 地域とのつながり

●歴史と文化●

川にまつわる昔の話を聞いたことがありますか？



歴史的、文化的な事物の有無、その保全、継承の状況を調査します。これらは、地域の水環境の歴史や文化的な特色を表すものであり、そこに住む人々にとって大切な“もの”や“ことがら”をいいます。川と地域との係わりについて調べましょう。

[有形の資源]

史跡、歌碑・記念碑、記念館、文学などです。実物を見たり地域の人たちにたずねてみたりして、調べましょう。

①治水や利水に係わるもの：旧河道、道路、橋、川岸、渡し場、昔の治水構造物（霞堤、水害防備林など）、取水・分水堰、堀、わんど

②動植物に係わるもの：河畔林、並木、名木、稀少・貴重種の生き物や植物

③その他：文化財、神社、石仏、水神様、川に係わる歌や詩や俳句、文芸作品の記念碑など

[無形の資源]

景勝地、川や川周辺で長年行われているお祭りやどうろう流しなどの行事や習慣、伝統的な川や水に関係する仕事、川を歌った詩歌や文芸作品、伝説・民話などです。地域の人たちにたずねてみたりして、調べましょう。

段階	内 容
3	たくさん聞いたことがある
2	聞いたことがある
1	聞いたことがない



5. 地域とのつながり

● 水辺への近づきやすさ ●

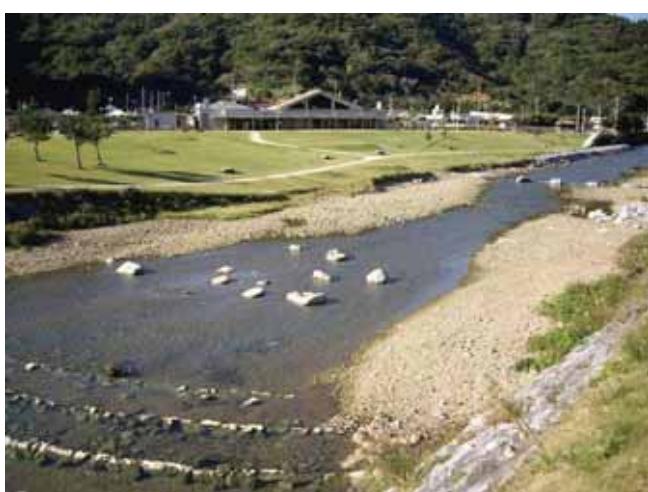
水辺には近づきやすいですか？



水辺に近づくことができるかどうかによって、人々の川への親しみが違ってきます。また、水際まで行くことができても、川に入れない、水にふれられないところでは、親しみが少なくなります。水辺に近づいて、直接、水にふれられるか、ふれることができる箇所が多いかを調査します。

現地で実際に水辺に近づき、簡単に水にふれられるかどうか、ふれられる箇所が多いかどうかを調べましょう。また、川や生きものを紹介するようなパネルや看板があるかどうかなども調べましょう。

段階	内 容
3	近づいて、水にふれられる
2	近づけるが、水にふれられない
1	水辺を見ることができない



5. 地域とのつながり

● 日常的な利用 ●

多くの人が利用していますか？



地域の人たちが実際に川（水）を利用しているか、水辺を訪れているか、またどのように利用しているかを調査します。

散策、釣り、レジャー、スポーツなど、どこ（水辺や水上など）で、どのように利用されているかを調べてみましょう。

段階	内 容
3	多くの利用がある
2	利用はあるが少ない
1	利用されていない



5. 地域とのつながり

● 産業活動●

川の水を利用した産業活動はありますか？



調査する川の水が、飲み水としての利用、農業としての利用、漁業、工業、舟運、観光など、地元に限らず利用されているかどうかを調査します。

わたしたちの飲んでいる水がどこからきているのか、家庭で使用した水がどこに流れているのか調べましょう。また、調査する川の水を利用してどのような産業活動が行われているのか、川を見たり（観光客が川に来ているか、漁業をしているかなど）、川岸に立ててある標識を見たりして調査しましょう。

段階	内 容
3	重要な目的によく利用されている (水道、農業、漁業など)
2	少し利用されている
1	利用されていない



5. 地域とのつながり

● 環境活動●

川を利用した環境活動は行なわれていますか？



対象とする水域で、環境を守るための活動や環境学習などを行っている住民団体があるでしょう。また、学校が総合学習などで川を利用しているでしょうか。このような川を対象にした様々な活動の状況を調べましょう。

(1) 調査前に行なうこと

市役所の情報コーナーや市民活動サポートセンターなどで、環境保全や自然観察会などのイベントに関するチラシや資料などを調べましょう。環境活動をしている団体や活動の状況を知ることができます。

さらに、インターネットなどで個別の団体を調べることで、活動の内容が詳しくわかるかもしれません。環境団体の活動場所（川の場所など）について調べて、地図の上に整理すると、どこでどのような活動が行われているかを知ることができます。

(2) 現地で行なうこと

実際に行っている、環境保全活動、自然観察会などの活動を調査します。

直接、その活動を見たりできることが少ない場合には、川岸に設置されている案内看板、ビオトープの看板などから活動の状況を調べましょう。

活動している団体の数や活動の状況から次のように判断します。

段階	内 容
3	多くの人がさかんに環境に係わる活動をしている
2	時々あるいは一時的に活動をしている
1	全く活動がない

2. 身近な川を調べに行こう！

(1) 調査をはじめる前に



① 事前に調べておこう



●調査の区間は、どこからどこまで？

インターネットなどを使って地図上で確認してみよう！

出典：(C)Yahoo Japan

●調査区間についての様々な情報を集めよう

現状だけでなく、昔の状況についてもできる範囲で調べることはとても大切です。

ア 川にまつわる昔の話（下図左）

イ 多くの人は利用しているかどうか

ウ 漁業や水道水の取り入れなどの産業活動（下図右）

エ 觀察や清掃などの環境活動が行なわれているかどうか



また、調査計画の立案や見直しにあたっても、できる限りの情報を集めた上で検討するとよいでしょう。安全についても注意しましょう。

(2) 現地を見ておこう



① 川の場所と、川に行くまでにかかる時間は？



- 作った地図を見ながら、川への行き方、
出発から到着までにかかる時間をしらべよう。
(左図は p29 の地図に対応)

出典:(C)Yahoo Japan

② 調査する川のまわりのようすは？

- 川がよく見える場所、川に入れる場所、目印などを見ておこう。
写真などもとっておくと、わかりやすい。



③ 川のようすは？

- 川底が見えるかどうか、川の流れや深さを見ておこう。



④ 現場は安全ですか？

- 調査を安全に行うことができるか確認しておきましょう。

(3) どんな道具が必要だろう？



ちょうさ
調査に行く時に、次のようなものを用意して持っていきましょう。



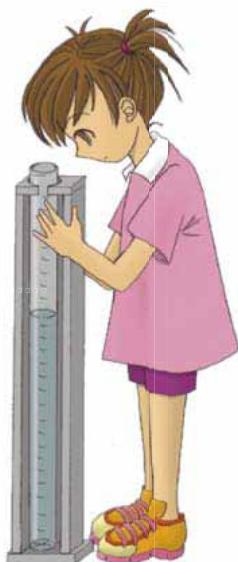
 **テキスト**
このテキスト

 **観察ノート**
テキストからコピーして、準備しよう

 **筆記用具と下じき**
・ぬれても大丈夫なシャーフペンなど
・観察ノートを書くための下じき

 **クリンメジャー（透視度計）**
水の透明さをはかる道具

 **その他**
・ぬれても良いくつなど
・気温と水温を計る温度計
・あると便利そうな道具があれば準備しよう
バケツ・手綱・カメラ・双眼鏡
水筒・ぼうし・図鑑など



(4) 調査に行こう！



①調べたことを記録しましょう きろうく



・観察ノートの書きかた

川や川のまわりを観察しながら、観察ノート(p33)に記入しましょう。

1) 学校かグループの名前、自分の名前、川の名前、調査した場所の目印

(橋など)などについて記入しましょう。

2) 5つの指標しひょう(ものさし)

・それぞれの質問事項について、答えが3~1段階に分けられています。

ちょうど合うところに○をつけましょう。

・そして、そのように決めた理由(わけ)を右のうんに書いておきましょう。

・観察ノートのまとめ表のまとめかた

みんなで観察した結果について、あとで表(p35)にまとめてみましょう。



1) 調査結果のまとめかた

・ 5つの指標しひょう(ものさし)項目のそれぞれの質問について、みんながつけた数字の平均を出します。

$$\text{みんなの数字を足したもの} \div \text{人数} = \text{質問ごとの平均}$$

・ つぎにそれぞれの指標しひょう(ものさし)ごとの平均を出します。

$$\text{質問ごとの平均を足したもの} \div \text{質問の数} = \text{指標ごとの総合平均}$$

2) 5つの指標しひょう(ものさし)のレーダーチャートの書きかた

・ 5つの指標しひょう(ものさし)ごとの総合平均をレーダーチャートの数字に当てはまるところに印じるしをつけて、線で結びます。

観察ノート

水辺のすこやかさ調べ

学校・グループ名		調査月日： 年 月 日 時 ~ 時
学年	年生	きょうの天気
名前		きのうの天気
調査場所	川の名前：	場所の目印など：

川の水や生きもの、けしきなどを観察しながら、次の3段階の当てはまるところに○印をつけましょう。また、決めた理由（わけ）を書きましょう。

① 自然なすがた

質問	段階	3	2	1	決めた理由（わけ）
●水の流れはゆたかですか？		ゆたかな流れ	流れがある	流れがない	
●岸のようすは自然らしいですか？		自然が多くのこっている	人工的だが自然のようすを取り入れている	人工的でコンクリートが多い	
●魚が川をさかのぼれるだろうか？		上流にさかのぼれる	さかのぼれる工夫がされている（魚道など）	障害物があって、さかのぼれない	

② ゆたかな生きもの

質問	段階	3	2	1	決めた理由（わけ）
●川原と水辺に植物がはえていますか？		種類が多くて、たくさんはえている	ところどころはえている	はえていない	
●鳥はいますか？		水辺の鳥がたくさんいるかすみ場が多い	鳥のすみ場があるが多くない	鳥がないしすみ場もない	
●魚はいますか？		魚がたくさんいるかすみ場が多い	魚やすみ場があるが多くない	魚がないしすみ場もない	
●川底に生きものがいますか？		川底に砂や石があつて、うっすらと藻がついている。虫がいる	石の表面がぬるぬるしている（藻が多い）	川底は黒っぽくて藻や虫はない	

③ 水のきれいさ

質問	段階	3	2	1	決めた理由（わけ）
●水は透明ですか？	とうめい 透視度が 70cm 以上	50cm 以上 70cm 未満	50cm 未満		
●水はくさくないですか？	においを感じない	少しくさい	とてもくさい		
●水はきれいですか？ (COD) ※自由選択	3mg/l 以下	5mg/l 以下	5mg/l を超える		

④ 快適な水辺

質問	段階	3	2	1	決めた理由（わけ）
●川やまわりのけしきは美しいですか？	美しい	ふつう	よくない		
●ごみが目につきますか？	ごみがない	ごみがあるが多くはない	ごみがとても多い		
●水にふれてみたいですか？	ふれてみたい	ふれてもよい	水にふれたくない		
●どんなにおいを感じますか？	心地よい かおり	気になる においはない	いやなにおいがする		
●どんな音が聞こえますか？	川の心地よい音がする	気になる音はしない	いやな音やそう音がする		

⑤ 地域とのつながり

質問	段階	3	2	1	決めた理由（わけ）
●川にまつわる話を聞いたことがありますか？	たくさん 聞いたことがある	聞いたことがある	聞いたことがない		
●水辺には近づきやすいですか？	近づいて、 水にふれられる	近づけるが、 水にふれられない	水辺を見ることができない		
●多くの人が利用していますか？	多くの利用がある	利用はあるが少ない	利用されていない		
●産業などの活動	よく利用されている (漁業や水道)	少し利用 されている	利用されていない		
●環境の活動	多くの人々が環境に係わる活動をしている	時々または一時的に活動をしている	全く活動がない		

自由記述(調査に参加して感じたこと)

観察ノートのまとめ表

みずべ 水辺のすこやかさ調べ

1. 調査を行った人や月日、川などの記録

学校・グループの名前		記入者の名前	
代表者の氏名 (担当の先生など)		調査を行った人数	人
参加した人たちの学年など (当てはまるものに○)	1. 小学生(1~3年生) 2. 小学生(4~6年生) 3. 中学生(1~3年生) 4. 高校生以上 5. これら以外		
調査した川の名前		調査した日	平成 年 月 日()
調査した川の位置(区間) (○○橋付近など)		調査を始めた時間 から終わった時間	時頃から 時頃まで
調査地点の気温(℃)		調査地点の水温(℃)	

2. 調査を行った川とその周辺の特徴の記録

調査を実施した場所とその周辺の特徴、見つけた植物や生きものの名前やそれらがいた場所など、自由に記入してください(絵を描くとわかりやすいです)。

3. 調査結果のまとめ

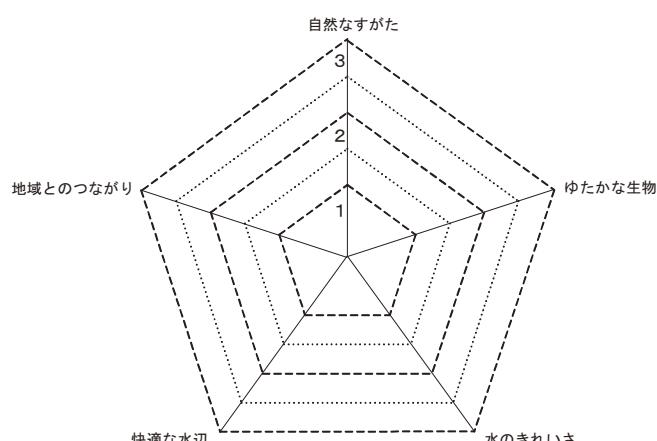
みなさんが行った結果を集めて、それぞれの項目を合計して総合平均値を出してみましょう。

調査軸	調査項目	平均	調査軸	調査項目	平均
自然な すがた	流れる水の量		快適な水辺	けしき (感じる)	
	岸のようす			ごみ (見る)	
	魚が川を さかのぼれるか			水とのふれあい (触る)	
	総合平均			川のかおり (かぐ)	
ゆたかな 生きもの	川原と水辺の植物		地域との つながり	川の音 (聞く)	
	鳥の生息、すみ場			総合平均	
	魚の生息、すみ場			歴史と文化	
	川底のようすと 底生生物			水辺への 近づきやすさ	
水の きれいさ	総合平均			日常的な利用	
	透視度			産業などの活動	
	水のにおい			環境の活動	
	COD (自由選択)			総合平均	
	総合平均				

(まとめ)

川について気付いたことをまとめましょう。

また、例えば、下のレーダーチャート図を作成し“水辺のすこやかさ”を見てみましょう。



3. 川へ行ったら注意すること



● ひとりだけでの行動はやめましょう。

- ・3人から5人くらいで行動しましょう。

● 次のようなときは、川に入るのはやめましょう。

- ・川の水かさが、ひざより上のとき
かわぞこ
- ・川底が見えないとき
- ・川の流れが速いとき

● 川に入る時は、次のことに気をつけましょう。

- ・ぬれても良いくつをはき、はだしはやめましょう。
(空きかんやガラスビンが落ちている場合があります)
- ・急に深くなったり、川底はすべりやすいので注意して歩きましょう。

用語集

◆指標(しひょう), 個別指標(こべつしひょう)

ここでは、川の水環境の状況をはかる【ものさし】のことを指します。

川の環境の状況を調べるときに、全国で共通する【ものさし】をもつことで、調査や活動の結果を、昔のようすや他の川と比較することができて、よりわかりやすくなります。また、これから課題を考えるために役立ちます。

◆護岸(ごがん)

川の水が流れることによって岸が削られることなどを防ぐため、岸を石やコンクリートなどで丈夫にしたものと言います。柳などの樹木を植える方法もあります。また生きものが増えやすいように工夫した方法もあります。

◆魚道(ぎょどう)

川に堰などがつくられると、魚やその他の水生生物が堰よりも上流へ行けなくなります。そこで、魚やその他の水生生物の自由な動きを助けるために、堰をのぼれるような道が必要となります。これを魚道と言い、様々な形が考えられています。

◆遡上(そじょう)

魚には、海と川の両方に、その成長の過程で生息場所をもっている種類があります。遡上とは、海で生活していた魚などが産卵、また成長するために川を上流に向かって上っていくことをいいます。

◆透視度(とうしど), 透視度計=クリンメジャー

川の水の見た目のきれいさを調べる項目です。すきとおり具合（透視度）をクリンメジャーという器具を使ってはかります。

＜ 調査を指導される方々へ ＞

調査の計画と実施、結果の活用方法について次の事項に留意して、調査全般にわたり子ども達をご指導ください。

（1）調査時期

まず、調査を行うことが大切です。できれば、1年間に4回程度の調査を行うことが理想的です。年間を通じて同じ指標を何度か調べて、季節による川の状況の変化を把握し、情報を蓄積していくことで、対象とした川をより深く知ることができます。なお、指標によっては、1年間では変化がないもの、変化が少ないものも含まれるため、調査体制（参加人数や年齢構成）を勘案して計画的に調査を行うことが重要です。さらに、この指標による調査が継続的に実施され、将来的には、経年的な変化がわかる情報として蓄積されることが望ましいと考えています。

（2）調査場所

水辺のすこやかさを調査する対象としては、調査者がある程度熟知した河川が望ましく、半日程度で調査可能な範囲を想定します。河川の特色を踏まえて、数十mから数百mの区間を調査範囲として踏査を行い、調査区間を設定します。ここで、ある程度熟知した河川を対象にする理由は、調査者の安全管理のほか、指標によっては事前に調査する内容が多く含まれる項目があるため、より円滑な調査が可能になると考えるためです。

（3）事前調査について

事前の調査が大切な指標があります。特に、「地域とのつながり」や「ゆたかな生物」などの軸に関する指標については、以下のような関連情報を参考して事前の調査を行い、必要な事項については関係者に聞くなどしておくことが望ましいです。そして、調査の際にはそれらを参加者にわかりやすく伝えます。調査内容の詳細については、平成20年度に環境省の行った調査の報告書の中に「調査マニュアル（詳細版）」として記載されています（下段の参考資料を参照）。

- ・平成20年度「水環境健全性指標検討調査業務報告書」環境省
- ・国土交通省地方整備局、都道府県、市町村の各HPの河川紹介情報
- ・都道府県立などの図書館の歴史、地域など情報
- ・水情報国土データ管理センターHPの「クリアリングハウス」の情報
- ・環境省HPの「生物多様性情報クリアリングハウス」の情報
- ・環境省、(独)国立環境研究所HP「全国水生生物調査」の情報
- ・環境省HP「地球環境パートナーシッププラザ・環境らしんばん」情報
- ・地図閲覧サービス（試験公開）、国土地理院HP 参考：<http://watchizu.gsi.go.jp/>

（4）調査の実施

調査方法は勿論のこと、川の歴史や地域との係わりなど様々な情報を積極的に参加者にお伝え下さい。

(5) 危険防止のための注意事項

現地調査を安全に行うためには種々の留意すべき事項があります。経験者の指導を仰ぎ、十分な情報を収集し（例えば河川管理者や関連組織のホームページなどで調べることができます），万全を期することが必要です。

現地調査を行なう際には、必要に応じて参加者（子ども達など）が保険に加入しておくことが重要です。調査にあたっては、危険防止のため、次の基本的事項に十分注意するよう指導して下さい。

【注意事項】

1. 調査は数人のグループで行って下さい。川での1人だけでの調査活動は大変に危険ですから止めて下さい。
2. 川に入る場合には、流れに注意してください。思った以上に流れは速いものです。流れの速さを確認してから川に入るようにして下さい。
3. 調査は、川底が見えるところで行って下さい。水深としては30cm位までとし、これよりも深いところには危険ですから入らないようにして下さい。
4. 川底に空きカンやガラスビンなどが落ちていて、川の中にはだして入るのが危険な場所もあります。必ず、ぬれてもよい靴をはいて調査して下さい。
5. 川底が急に深くなったり、泥で足を取られたりすることができます。十分に注意して下さい。
6. 川底やゴミなどを触る場合には、ゴム手袋などをはめて調査して下さい。
7. ケガをしたときに備えて、病院の場所（連絡先など）や連絡方法について事前に確認しておいて下さい。

(6) 調査（結果）の活用方法

①総合学習・環境学習としての実施

指標の調査を学校での総合学習や理科の授業など及び住民・NPOなどの環境学習の一環として行うことにより、子ども達や大人が身近な川に近づき、今まで気が付かなかった水辺の状態に気づくことができます。地域との係わりなど地域の古老、住民、学識者などの知る情報をうまく伝えることで、住んでいる地域を深く知ることができます。この様な活動を継続することで、子ども達や大人が身近な水辺への関心を高め、長い目で見て水環境改善へ結びつくことが期待されると考えます。

②調査結果の活用

総合学習や理科の授業など及び環境学習の一環として行われた調査の結果は、学校内や地区で発表し、子ども達や住民・NPOなどの行なった調査として公表することができます。それによって子ども達の父兄や地域の住民が水辺に関心を寄せてくれます。さらに、先生方や住民・NPOなどの皆さんとの様々なネットワークを通じて地域の外に情報発信することで、活動が評価されたり相互に情報交換したりすることが期待されます。

